

会議等結果報告書			
会議区分	会議 ・ 打合せ ・ 協議	文書番号	125
		決裁期日	平成23年8月30日
名称	上富良野町協働のまちづくり推進委員会（第3回）		
日時	平成23年8月23日（火） 午後7時～午後9時		
場所	保健福祉総合センター1階会議室		
出席者	委員10人 町民生活課事務局3人 合計13名		

内 容

[進行：町民生活課長]

町民生活課長から、欠席した委員について報告。

◎あいさつ

三島会長： 月1回ペースで開催していたが、間延びしてしまった。主幹の帰町報告も含めて行っていききたい。

◎自己紹介

商工会から新たに選出された近野委員が初めて出席されたため、自己紹介を行う。

町民生活課長： 要綱に基づき、ここから先は会長が進行する。

議 題

4 その他

三島会長： 最初に主幹から帰町報告を行ってもらおう。

吉岡主幹から被災地の現状と支援内容を報告。

- ・ 石巻市は死者行方不明者が4,000人以上おり、全体の1/5が石巻市だけで亡くなっている。また、がれきの量も全体の2,200万トンのうち600万トン以上が石巻市であり、石巻市のごみの量の106年分に相当する。ちなみに上富良野でいうと約2,000年分のごみとなる。
- ・ 建築課で仮設住宅関係を担当し、抽選会の手伝いや当選者への電話連絡などを行った。電話連絡は市役所の回線がつながりにくいため専用の携帯電話を使用し、他の市町村も含めた8人で連絡していた。また、窓口には仮設住宅入居に関する苦情や問い合わせが来るため、その対応も行った。
- ・ 今回の震災で約50市町村が被災しており、全体で5万戸の仮設住宅が必要とされているが、石巻市だけで7,300戸必要である。
- ・ 石巻市は平坦地が少なく、そういった部分は海岸線なので被災しているため、そこに仮設住宅を建てるわけにはいかず、市の公園を潰して仮設住宅を建てている。また、自衛隊が駐屯していた場所にも仮設住宅を建てている。私が支援に行った時は2割ほどしか仮設住宅に入っていない。現在は6割ほど入居している。
- ・ 上富良野町のように防災無線がないため、テレビの情報でしか津波のことがわからず、1時間後に津波が到達した時に避難しなかった人が多かった。石巻市は高台が多く、避難する

時間も場所もあったのに多くの方が亡くなったのは残念

- ・ 町長が視察した際に行った女川町は、入り江が狭く40～50mの高台まで家が壊れており市街地は壊滅状態だった。

1 広報かみふらのお知らせ版8・9月号の掲載内容について

吉岡主幹： 広報8月25日号に掲載する予定の協働のまちづくりの記事だが、ブレインストーミングが延期となったため、元々の基本指針から説明を加えて誌面にしている。しかし、基本指針の説明は協働に期待される効果を残すだけとなっているため、9月の広報の原稿は本日のブレインストーミングのテーマ討論の結果を載せることとしたい。もし本日のテーマ討論がまとまらなければ、協働に期待される効果を掲載するように考えている。

2 テーマ討論（地域の拠点づくりについて）

吉岡主幹： この会の前身である推進準備委員会でも5回ほどワークショップを行っている。今回初めてワークショップを行う委員の方もいると思うので、ブレインストーミングの基本原則を説明する。以前久我委員から提案のあった地域の拠点づくりをテーマにして進めていきたい。久我委員から説明していただく。

久我委員： 町内会の組織の在り方が盛んに言われているが、つながりがさらに薄くなっている気がする。道新に富良野市の協会病院の跡地の周りをさらに変えていくという記事が出ていたが、上富良野町でも公営住宅の建て替え時期も来ているので、ただ公営住宅を建てるのではなく、どこか1室をいつも使える集会所のようなものにしていただければと感じる。地域の人たちの中には、託老所たんぽぽにも来られない人もいる。最近、認知症の人も増えており、脱水症状の人を見かけて助けたということもあったが、そういう人と話す場がない。もし地域づくりということを考えるのならば、各町内にそういったものがあることが望ましいと思う。

島瀬委員： 曜日を決めて誰か（世話をする人）がいる体制にしていかなければならないし、暖房の経費などもかかり、様々な問題がある。

平倉委員： そういった建物は各地区にあるのだろうか。

島瀬委員： 各町内で公共施設なども利用している。

吉岡主幹： 富良野の協会病院の跡地の利用とは現在のフラノマルシェの隣にマンションを建て、まちを作ってその中で生活できるような形にし、市役所の窓口業務の機能も加えたいという内容です。

近野委員： 3階から7階がマンションで2階がテナント、1階が商業スペースとなり、その横に集会所、温浴施設などが建設され、周辺が商業スペースとなる。

持安委員： 上富良野町の公住も建て替え時期なのでこういう構想はないのだろうか。大切なのは集会所、町には会館があるのでそれを地図に落としとしてみて、活用するきっかけや仕組みを考えていかなければならない。

久我委員： 町の予算もあるので、住民会長には町内会長と今ある会館を手直しして使うことはできるのか話し合っていたきたい。

持安委員： なぜ拠点づくりが必要かということ整理しなければならない。

久我委員： 人のつながりが薄く、どんな人が住んでいるのか分からない。行事に出て来ないのは歩くのが大変なことと声を掛ける人がいないからではないかと思う。

持安委員： 防災への関心が高まり、災害に備えた組織づくりには日頃の絆が必要、そのために集まることが大切、町の行事やふれあいサロン、老連の活動など、参加するきっかけをどう作るか。

久我委員： 乗り合いタクシー事業も評判が良くない。

持安委員： 乗り合いタクシー事業は、試行段階なので良くなくていい。それを解決すればいい。

吉岡主幹： どんなふうに評判が良くないのだろうか。

久我委員： 予約した人の話では、(車が) 待ち合わせの時間に遅れるという苦情を聞いている。

三島会長： 病院から帰るならば何時に帰れるかわからない。

瀬川委員： そういった意見はどこで集めているのだろうか。

吉岡主幹： 乗り合いタクシー事業は総務課で担当している。

瀬川委員： 総務課ではそういう話を聞いているのだろうか。

北川課長： 政策調整会議などではどういった状況なのか聞いていない。

持安委員： 予算を使って効果が挙げたかの結果を出さなければならない。事業が始まればまさしく協働のまちづくりになる。ダメなら代替りのシステムを考える方法もある。

松下副会長： 総務課で試行期間の意見を集約することが重要、その意見がどこにも行かないのであれば反映されない。

吉岡主幹： 利用者の意見だけを聞くのか、住民会長懇談会などで住民会長さんの意見も聞くべきなのだろうか。

松下副会長： 利用者の意見ではないだろうか。

北川課長： 乗り合いタクシー事業に登録している人、していない人含めて、こういうものがあれば利用するという意見があるかもしれないので広く集めなければならない。限定的な情報収集だけではその人たちだけの意見であって他にどんな意見があるかわからない。それは当然聞かなければならない。

持安委員： 集まるための足がないという話からこういった問題点が出てきた。隣近所の人が運ぶということはできないだろうか。

三島会長： 南富良野町では集会所まで隣近所の人が100円で送るということをやっている。

平倉委員： 誰かを乗せるということはその人の命を預かることになる。家族などは乗せるが、他人が乗っていた時に事故を起こす心配もあると思う。

松下副会長： 100円でも500円でもお金を取れば白タクになってしまう。

吉岡主幹： 南富良野町は各地から講師に呼ばれるぐらい福祉担当にエキスパートの職員がいる。先進的な取り組みをしており、地域通貨という独自の制度を作ってやっていると思う。もちろん合法的なもの。

三島会長： 特別養護老人ホームも金山に作っている。

近野委員： 南富良野町は過疎債をうまく使って負担が1割で済むようにしている。

吉岡主幹： 町外を含む広い区域から入所者を募集し、特別養護老人ホームは利益が上がるという計算のもと、増床に踏み切っている。

持安委員： 計画を平成16年に作ってそれを実行している。

近野委員： 沿線で合併すると言った時、南富良野町が老人施設の拠点にしたかった。南富良野町だけで埋まらなくても広域から呼べば全て埋まるという考えだった。占冠村でも乗り合いタクシーのようなものを行っている。

持安委員： 地域に足のない人がどれぐらいいて、どういうニーズがあるのか。その対応を町民で考える。できないことは町に頼んだり、相談したりして制度外のサービスができればいい。そのきっかけを作りこの委員会で作っていければいい。

瀬川委員： 高齢者は足がないので行けないという話になるが、本当にそこが問題なのか。拠点

づくりは高齢者だけでなく、子育てをしている母親などにも必要だと思う。そこで開かれるイベントや行事が自分にとって面白くなければ行かない。行かない理由の一つとして足がないと言う。場所よりもイベントや行事の楽しさが重要。

久我委員： それなら誰かがプロジェクトを組んで、いつも何かをしているようにしなければいけない。それは大変なことではないだろうか。

瀬川委員： 例えば5のつく日に行くと面白いことがあるから人が集まって、そこからまた減るがそれなりに続けばいい。私が言いたいのは足がないことが本当の理由なのか。本当に足がなく来られない人もいると思うが、それ以外のこともあるのではないか。

松下副会長： 瀬川委員の言うようにカラオケ大会や料理教室のような継続的にできることを考えるといい。

持安委員： 面白いところに人は集まる。現状把握とそれに対応するため住民会長や町内会長などのリーダーがいる。それぞれよく話し合っただけでシステムができればいい。

三島会長： 託老所は日曜日と水曜日にやっており、多くの人がある。

久我委員： それは楽しくて来るのだからいいと思う。

島瀬委員： 顔ぶれはいつも同じなのだろうか。

久我委員： 同じである。本当に足が弱って出て来られなくなった人もいるが、また新しく声を掛けるといいと思う人に声を掛けると1回見に来たら続けてくるようになる。

瀬川委員： やはりそれは楽しいからだと思う。多少足が痛くても来るのではないか。

久我委員： その通り、やはり、楽しい場所がある、会いたい人がいるということだと思う。

北川課長： 足がないと言っても自分で足を作って来る。最初に久我委員が言った泉町公営住宅の中の会館は、子ども会が中心に使っており、地域の集会は泉栄防災センターを使うと思うが、建て替え計画がある中で1棟10戸なり20戸の真ん中のスペースに集まって話す場所があれば、外出するときそこに寄れば世間話ができる。公営住宅も担当している課なので、そういうことを公営住宅に求めているのかと思い聞いていた。足がないのではなく足がないような言い訳を作っているだけで、行こうと思えば足が痛くても自分で行く。今は独居や老人夫婦世帯が増えているので、家族に送ってもらうことは難しいところもある。普通のタクシーより乗り合いタクシーのようなものがあれば安いのもっと行けると思う。

上村委員： 今はパークゴルフやカーリングなどが流行っていて、元気のいい人はそういうことをやっているのだから麻雀や将棋、囲碁をする人が地域からいなくなってきた。体に不自由を感じる人は出てこなくなってきた。

三島会長： 私の老人会では百人一首をやっている。例会は楽しいことがなければ来ない。

島瀬委員： 楽しいところに人が集まるのであれば、地区ごとに集会所を設ける必要はない。今ある施設を利用してできることを住民会や町内会で考えていかなければならない。託老所には遠くから来ている人もいると思う。近くにあるに越したことはないが、そこにこだわる必要もない。例えば他の町内と一緒に集まれば宮町の人でも旭町の人とも知り合いになれるなど友好関係を上げられる。また、ニーズは、それぞれ聞いてみないと分からない。防災マップで人員の把握だけをしていても意味がない。

持安委員： なぜ町内会や住民会の単位で考えているのかというと、上富良野町は十勝岳を抱えており、阪神淡路大震災の時に一番頼りになったのは隣近所の人だった。日頃からのつながりがあるからできる。今はつながりが薄くなっていることが課題で、地域の力も弱くなっている。それを考える一つの手段として防災マップで現状を掴み、その中で個人の課題を地域の課題と

して捉える。地域の絆を再構築することが協働のまちづくりの大きな目標である。

北川課長： 住民会長だけでなく、役員全員が同じ気持ちにならないと進まない。考え方は違ってもやろうというふうに思ってくれないといけない。やってもらうために地域の住民が役員に言っていかなければならない。

持安委員： 住民会長がリーダーで何かする必要がある。住民会長にわかっていただきたい。やはり、誰かがリードしていかないと物事が進んでいかない。

久我委員： 今年、町内会長をやってみて思うことは、住民会長はじめ各町内会長、子ども会会長などが集まり、できれば地域の役場職員や町議員にも入っていただき、話し合う場というものを持っていただきたい。どこにこの話をしていけばいいのかわからないが、そういう場が欲しいと思っている。

持安委員： 住民会長と公募の方と行政で話し合うという機会を1度作ると、定期的にやろうという声が出ると思う。

久我委員： 会議で言わなければ、住民会長に口頭で言ってもだめ、1人の力ではどうにもならない。

松下副会長： 住吉では、住民会の役員に福祉推進員や民生委員などが入って話し合っているのだが、婦人会や子ども会があればそういう話になるかもしれない。

持安委員： 絆のある地域を作りたいので、当初住民会長や役員に力を借りて仕組みを作るかもしれないが、それが出来上がれば継続することを考える。それは地域の力なので支え合うということや皆が考えるわけで役員が考えるわけではない。そうすれば役員をやってもいいと言う人も出てくるかもしれない。

松下副会長： 町内会長はなんとかなるが、住民会の役員はなり手がいない。やってくれる人は私より上の年代の方、現役は仕事があるためできない。

持安委員： そういったことは住民会長懇談会などで話し合ったりするのだろうか。

松下副会長： 会議の中では表立っては出ないが、その後の懇親会などでそういった話にもなる。

持安委員： 私はそういったようなことを話し合う機会が絶対に必要だと思っている。例えば、行政職員を地域に入れていっているところもある。立ち上がりの事務作業などをやる人が必要という話もあると思う。そういったようなことをめざして話し合うということが大切で、住民会長だけでなく、公募の人や行政職員、議員なども入れて一緒になって考えていけばいい。1つ1つの問題を解決する方法を本気になって考え、実際に試行して検証することが必要だと思う。

松下副会長： 住民会だけではなく担い手不足という問題がある。

持安委員： どんな組織もそうだと思う。今まではそれをどうにか乗り越えてきていると思う。みんなと一緒に考える場というものは必要だと思う。

瀬川委員： 10年後や20年後を見据えて、協働のまちづくりを今の子どもたちに教えていくということも1つの方法だと思う。これを町独自で入れることができれば、人材育成にもなる。学校の役員は回り番であり、それに小学校、中学校、高校と慣れていけば大人になってもそれが当たり前になると思う。今から自分たちの意識を変えていくことは難しいので、若い人たちが変わっていきけると10年後には少し変わるかと思う。もちろん現状を話し合っただけで変えていくことも必要だが、これも必要だと思う。

平倉委員： 青少年健全育成を進める会で年に1回なかよしサミットをやっており、小中高生と関係者が集まっている。毎年、命をテーマにして討論されているので、そういうところで協働をやさしくしたテーマを話し合えればいいかもしれない。

松下副会長： そのために概要版は小学校4年生くらいでも理解できるものを作ろうと話していた。

平倉委員： 以前子ども料理教室に参加させていただいた際に栄養士の職員が年に何回か学校の授業に取り入れてもらってやっているということを知った。そういうところに入っていかうと思えばできるのではないか。

吉岡主幹： 子どもの参加ということも自治基本条例にも入っており、学校でもやるべきだということで中学校には話をしに行っている。上富良野中学校では一昨年に行っており、東中中学校では一昨年、昨年に行っている。高校は何回かお願いしたが時間が取れないということでできなかった。小学校にはこれまで行っていないが、概要版やもっと簡単なものがあれば大丈夫かと思う。

北川課長： 科目の中でカリキュラムの中に入れられるならいいのだが、カリキュラムの中うまく入り込めるかどうかだと思う。

島瀬委員： 全国規模でやらなければ、上富良野町で協働について植えつけていても地元に残る人は何人かしかいないと思う。

瀬川委員： 逆に上富良野町くらいの規模だからやりやすいと思う。全国区ではできないことなので、他の町に行ってもやってくれればいいくらいの気持ちでやったほうがいいと思う。

近野委員： 大人と子どもの発想は違うので、1つでも2つでも子どもたちから町をこうしたらいいという意見が出ればいい。

北川課長： 子どもサミットでもいくつかのことが実現している。

持安委員： そこに協働のまちづくりが入り込むことはできないだろうか。子どもに教えるということには賛成なので、断られてもいろいろな方法を使って実現するのがこの委員会だと思う。

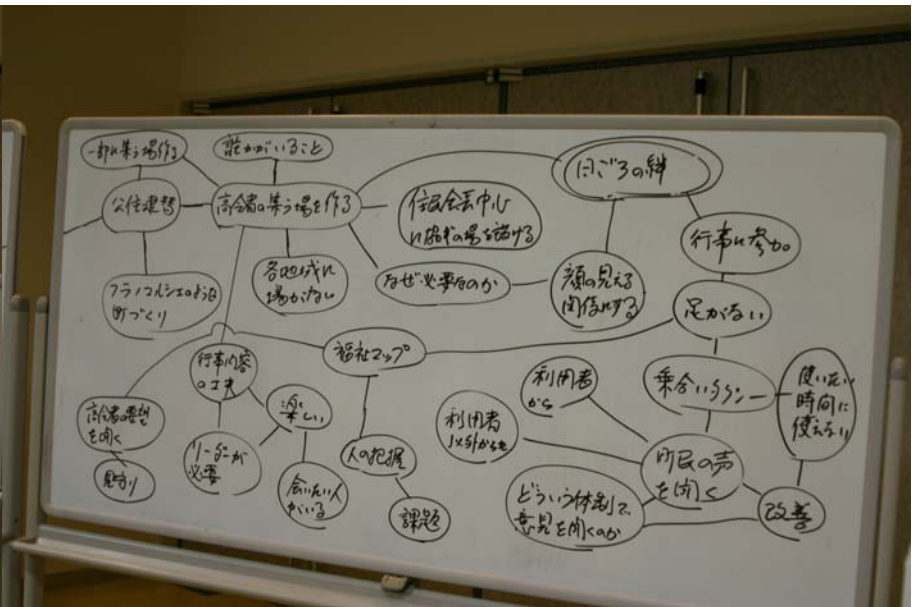
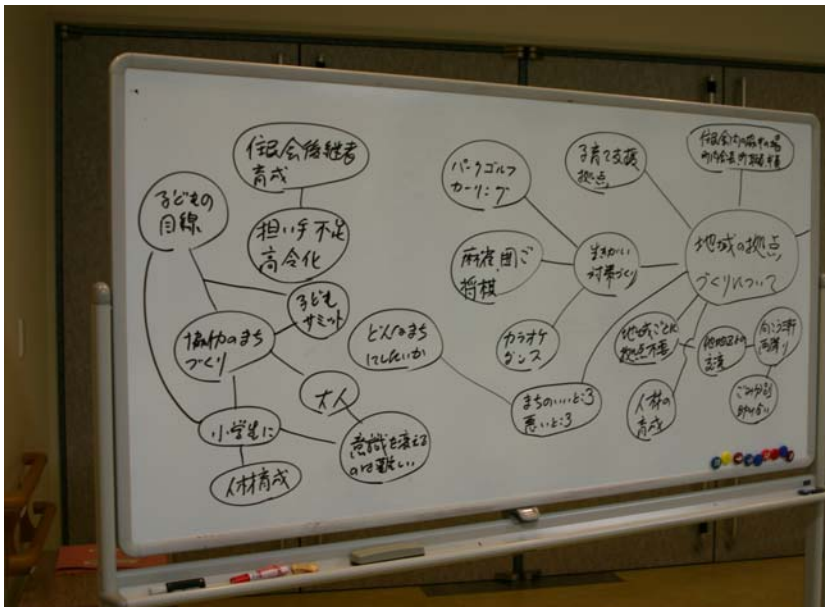
瀬川委員： 全員ではないかもしれないが、学童保育などの時間はあると思う。日々、1時間から2時間の遊んでいる時間を利用させてもらうことなども1つの方法ではないか。

3 今後のスケジュール

吉岡主幹： 今後は事務事業の一覧を作って協働でできることの掘り起しを行っていきたい。また、自治基本条例は21年から施行され、5年を超えない毎に見直しを行うことになっており、その協議も後半から入っていかうと考えている。

三島会長： 次回会議は9月29日（木）に開催したいと思う。

閉 会 [会議終了：21時00分]



上富良野町協働のまちづくり推進委員会 委員名簿

任期：平成22年6月29日から平成24年3月31日まで

3

	所属団体・機関の名称	氏名	備考	8月23日
1	住民会長連合会	上村 勉		
2	住民会長連合会	松下 力		
3	社会福祉協議会	持安 弘行		
4	NPO法人たんぽぽの会	三島 功士		
5	ふらの農業協同組合上富良野支所	瀬川 英樹		
6	商工会	近野 直紀		
7	生活安全推進協議会	島瀬 良一		
8	女性連絡協議会	中澤 正子		
9	リフレッシュ・マイタウン・かみふらの	奥田 哲也		
10	公募	大内 和行		
11	公募	徳武 良弘	8/15退任	
12	公募	久我 みち子		
13	公募	平倉 範子		